

パウロ松坂暲政先生

1942年～2009年

立教大学経営学部教授 尾崎俊哉

パウロ松坂暲政先生が2009年7月19日、逝去されました。経営学部では、生前の本学部へのご貢献への感謝の念とともに、同年11月28日、香山洋人チャプレンの司式のもと、本学池袋キャンパス内の諸聖徒礼拝堂において記念式典を、引き続き第一食堂において茶話会を行いました。

パウロ松坂暲政先生には、立教大学経営学部の開設準備の段階から、企業の人事部門でのご経験を踏まえ、リーダーシップ教育をはじめ様々なアドバイスをいただきました。また2006年4月の本学部の開設にあたっては、兼任講師として発足当初より1年生全員が前期に履修する「基礎演習」、ならびにビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）の各クラスを担当いただくなど、学部の教育の柱の一つであるBLPの講師陣として、その立ち上げに多くの貢献をいただきました。またBLPのカリキュラム構築やリーダーシップ研究にも携われ、その成果は、日向野幹也、アラン・バード編『入門ビジネス・リーダーシップ』（日本評論社、2007年）のなかで、「ヒューマン・リソースからみたビジネス・リーダーシップ」という章をまとめておられます。

松坂先生にアドバイスをお願いしたいと考えた理由は、本学部が目指すリーダーシップ教育ひいては学部教育の方向性について、企業の人事、なかでも人材育成の実務のプロの目から見た率直なコメントをいただきたいと考えたことに遡ります。日本アイ・ビー・エムから日本ストライカーまで37年間、わが国の代表的な外資系企業で一貫して人事部門での仕事に携わってこられ、社員の研修や人材開発での豊富な実務経験を積んでこられました。小生自身、いまから四半世紀ほどまえ、IBMアジア太平洋本部での上司として、松坂さんが役員や管理職から新入社員まで、また日本人に限らずアメリカやアジア各国のIBMから派遣されてきた社員を対象に各種の人材開発プログラムを開発し実施しておられるのを間近に見ることができ、またそのいくつかにも参加する幸運に恵まれました。その後、日本ストライカーへ移られたあとも人材開発の大切さについて折に触れてお話を伺っていました。これらの経験から、経営学部開設準備室において、「リーダーシップ教育」というこれまでの大学教育としては例のないカリキュラムを学部の柱の一つに据えることになったとき、真っ先に実務家の豊富なご経験をふまえたアドバイスをいただきたいとお願いに参上しました。

その後、松坂先生には本学部のリーダーシップ教育の拡充にとって無くてはならないファカルティの一員として大いに活躍され、多くの学生の教育に携わられ、彼らの人生に重要な影響を与えられました。松坂先生の教育者としての基盤がキリスト者として人生を歩んでこられたことにあったことは明らかです。この点について、記念礼拝の場で香山チャプレンは、「キリスト教に基づく教育を建学の理念とするこの立教大学にとってかけがえのないものである」と述べておられます。松坂先生が本学部で教鞭を取られた時間は決して長くはなかったのですが、そのまかれた種は、我々の予想を超えて、これから長く大きく実りを結んでいくことと思います。